

時事新報は一年三百六十五日も休刊無し

# 時事新報

第二千八百四號  
明治三十三年十月十一日 土曜日  
舊曆庚寅八月廿八日 (乙丑)  
出刊時間 午前八時十五分  
入紙時間 午前八時十分  
印刷時間 午前八時十分  
印刷部 印刷部  
電話 四四四四  
(西曆一千八百九十年)

## 三船乗組遭難者弔慰金

汽船武蔵丸船乗組員丸布引丸の三艘は航海中去年十月七日の暴風雨に遭ふて何れも船長始め乗組員死んで死没し僅に生存せるもの武蔵丸に一名、船信丸に七名、布引丸に十名のみ其生存者も難も傷病に罹りて其甚だ多し實に海上上稀有の災難にして其慘狀は當時の時事新報に詳なり今度日本海員救済會に於ては太く遭難者の不幸を憐れみ死者の弔祭并に遺族の救恤生存者の慰勞の爲り廣く世人の義金を募集するに就き本報に於ても此不幸の出来事と坐視するに忍びず世間慈善者の爲り義金取集めの勞を取るべし日本海運業擴張の切なる今日に當り世人が此業に倒れたるものを哀愍救恤するの深きは此道の要諦に關する事からす世の慈善者諸君左の規定に従ひ義金を本社に送付あらんと切望に堪へず

義金申込規定  
一 義金は一口十圓以上とし  
一 募集したる義金は取集めて日本海員救済會に送り同會に其處分を托す可し  
一 本社に達したる義金は翌日の紙上に其金額并に義捐者の姓名を掲げ之を以て受取の證とす  
一 義金申込は本月二十日迄を限る

## 時事新報

### 帝國議會召集の詔勅

朕帝國憲法第七條及第四十一條に依り本年十一月二十五日を以て帝國議會を東京に召集すとの詔勅は我輩が國者諸君と共に日本の本紙官報欄内に於て拜讀する所あり即ち我日本を始めとして東洋の諸國に前古未嘗有の國會は急々今後四十餘日に於て其開會を見るに至る可し應ふに全國人民の感情は果して如何なる可きや熱く一籌するに代議政治の先聲とも云ふ可き西洋諸國に於ける國會歴史の事例は多くは清淨潔白のものにあらざりて或は君民軋轢の結果を胚胎するものあり或は鮮血の汚痕を印するものあり其最も無事なりし北米合衆國の如きさへも憲法の制定に就ては非常の紛争を免れず今日に至りては年來の經歷も幾多の改革も多少の瑕癈あるを免れざりしに之に反して我國の立憲制度は西洋諸國に對して其だ晩出のものたるにも拘らず明治維新以來官民ともに進意の在る所を奉承し若く其歩を進めて敢て解るるも憲法の大典も既に定まり國體擧げの事も全く終りて茲に憲法會議召集の詔勅を拜するに至りたるは誠に出たき次第にして我立憲制度の今日までの成行は之を一國の榮華として世界萬國に誇稱するも敢て慚色なかる可し我輩の痛信する所あり然りと雖も今日までの成行は云はれ立憲制度に入るの準備にして急之を實にするは議會開會して憲法を有效ならしむるの後に在り即ち初度の帝國議會は日本全國上下の希望を具して立憲制度の實施を實際に試みるものなれば其責任は實に重大なりと云はざるを得ず其誠なるものは孰れも憲法の擁護を以てし進んじは人負其責の無難を受けたる人々あれば

議の容易ならざるは勿論の事なれども我輩は初度の議會に列す可き議員其人に向ては世界萬國に對する我日本國の名譽の爲めに特に之に重きを置きて多を望まざるを得ず偶々議會召集の詔勅を拜し議員の榮華を賀すると共に其人の自重を斷るものなり

## 勅諭

朕帝國憲法第七條及第四十一條に依り本年十一月二十五日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス  
御名 御座

- 内閣總理大臣 山縣 有朋
- 内務大臣 西郷 從道
- 司法大臣 山田 顯義
- 大藏大臣 板方 正義
- 陸軍大臣 大山 巖
- 海軍大臣 青木 周藏
- 文部大臣 芳川 謙正
- 農商務大臣 陸奥 宗光

## 刑部省法律第九十六號(昨日の續)

- 第三十條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第一 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス  
第二 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス  
第三 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス  
第四 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス  
第五 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス  
第六 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス  
第七 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス  
第八 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス  
第九 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス  
第十 規定ニ依リ職務ヲ執行スルニシテ法律ニ違背シタルモノトス

- 第二百八十一條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第二百八十二條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第二百八十三條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第二百八十四條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第二百八十五條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第二百八十六條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第二百八十七條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第二百八十八條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第二百八十九條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第二百九十條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス

- 第三百一十條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第三百一十一條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第三百一十二條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第三百一十三條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第三百一十四條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第三百一十五條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第三百一十六條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第三百一十七條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第三百一十八條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス  
第三百一十九條 被告ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス